平成 31 年度　長期留学報告

所属・職名　　国際学部　准教授
氏　名　　石川　一喜

留学先　　英　国　　University of Plymouth

目的　　持続可能な社会の実現に向けた方策と
その教育のあり方の追究

期間　　令和元年 10 月 15 日～令和 2 年 8 月 5 日

※2 年以内に本学機関誌、もしくは学会誌等に研究成果を発表する。

長期留学報告

滞在国：英国

留学期間：2019年10月15日～2020年8月5日

国際学部　准教授　石川一喜

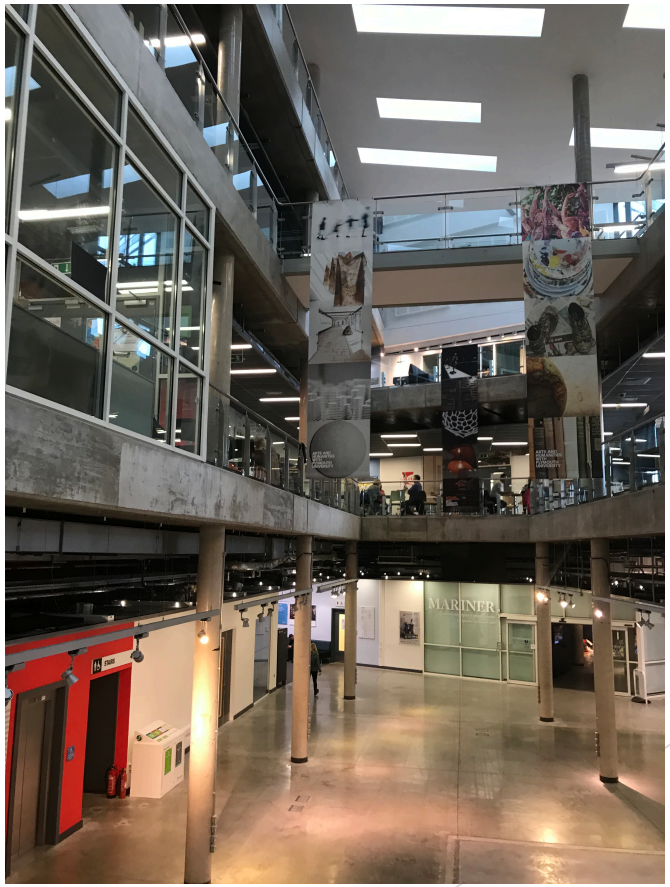
留学先：英国 プリマス大学
University of Plymouth

- 所在地：イギリス・デボン州プリマス

  ＊プリマス（人口約25万人の港湾都市。1620年にメイフラワー号が出航した地としても有名で、滞在中の2020年はその400周年にあたった）

- 所属先： the School of Art, Design and Architecture, Faculty of Arts and Humanities
- 身分：Academic visitor
- 担当教授： Dr Satish BK.

https://www.plymouth.ac.uk/staff/satish-bk



滞在先：英国 デボン州
トットネス Totnes

- トランジションタウン(Transition Town)運動発祥の地。

  ＊トランジションタウン＝石油に依存する（20世紀的）社会から移行(transition)するため、地域のリソースを最大限に活かし、サステナブルなコミュニティづくりを志向する草の根的な運動。

- 古くから「マーケット・タウン」として有名。毎週金曜・土曜に、恒例の市場が街の中心地Market Squareで開かれる。
- 近くには、持続可能な社会の担い手を育成するSchumacher Collegeやシュタイナー教育を実践するSouth Devon Steiner Schoolがあり、オルタナティブな教育活動が見られる地域でもある。

研究テーマ：持続可能な社会の実現に向けた方策とその教育のあり方の追究

課題①：SDGsを達成していく社会の創造プロセスにおいて、どういった人材が必要で、それを実現する担い手はどう育んでいけるのか？　（ソフト的な側面）

【研究活動】

- Totnesで行われるTransition Townの取り組みへの参加・体験
- Schumacher Collegeで開講されるShort CourseやCAT(Centre for Alternative Technology)のセミナーへの参加
- University of Plymouthでの研究者や大学院生とのディスカッション

課題②：その過程において、どういった環境や条件があれば、効果的に、かつ有意義にそれが実現されていくのか？
（ハード的な側面）

【研究活動】

- Tones市民に対するインタビュー調査やTTT(Transition Town Totnes)の構成メンバーへのヒアリング
- “10 of the Greenest Universities in the UK”にランキングされる先進的な大学への訪問調査
- University of Plymouthの大学院や学部の講義のオブザーブ　など

研究の達成状況

- 新型コロナウイルス（COVID-19）の流行によるロックダウンにより、3月中旬より研究活動を実質的に中断せざるを得なくなった。春先からTTTの活動も本格化するはずで、可能な限りの参加を考えていたが、すべての予定がキャンセルとなった。
- 大学も完全に閉鎖され、立ち入りできなくなり（結局、帰国時までその状況は続いた）、他大学の訪問調査も英国滞在中に実現することは困難となった。
- Schumacher College主催のShort Courseには3回受講の予定でいたが、2019年11月実施されたものには参加できたものの、他２つはキャンセルとなった。注目していたCAT(Centre for Alternative Technology)の訪問やセミナー受講もできなかくなった。
- 一方で、徐々にウェビナーやオンラインでのミーティングなどは実施されていくようになり、かろうじてそこでの情報収集・交換は可能となった。
- ロックダウン解除後は、限定的にTTTのボランティア活動への参加が許されたため、研究テーマを変更し、TotnesのTransition Town運動の現状調査に焦点を絞った。

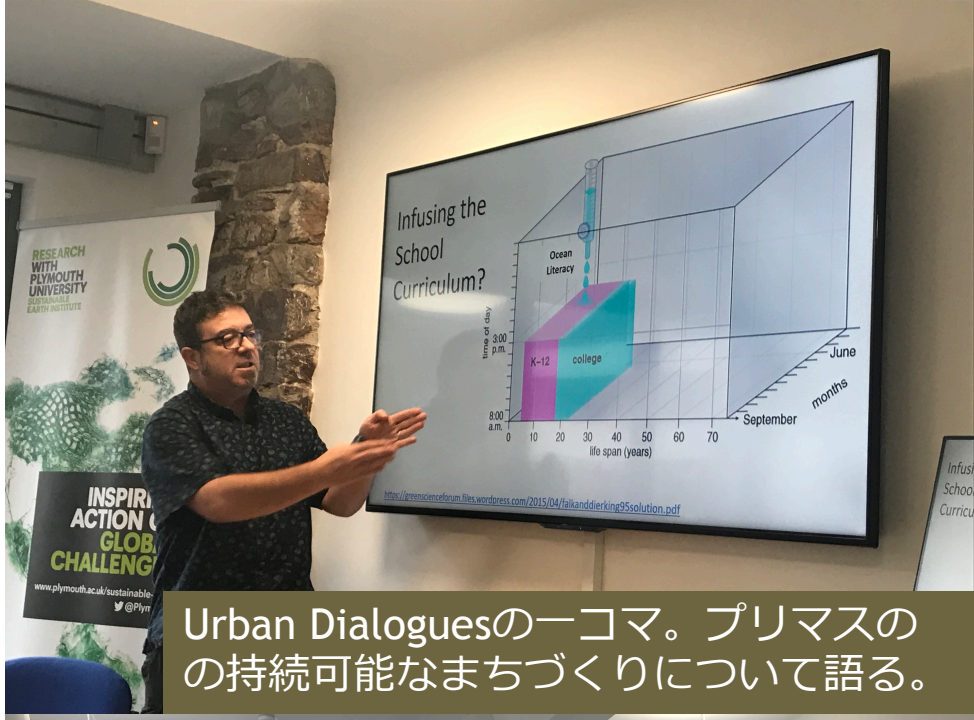
参加

- Urban Dialogues（11月13日” Education”, 1月22日”Theatre and Performance”, 2月26日“Global Health”）
- Language Café（プリマス大学 毎週水曜日 留学生や地元の人との交流会）
- Wassail（1月25日 地域の伝統的な祭）
- Show the love – The Climate Coalition（2月14日）https://www.theclimatecoalition.org/show-the-love
- “The Art of Rapid Transition: A Series of Talks and Workshops”

第3回“Banking for a just transition : Creating a community bank for the south west”（1月30日）

第4回”Changing Politics”（2月27日）

- New Futures Academy 主催“Trees & Climate Solutions”（2月23日）
- Transition Town Totne主催"Time to Breathe”



Urban Dialoguesの一コマ。プリマスの
の持続可能なまちづくりについて語る。

大学内のSustainable Hubに集い、気候
変動対策について熱く語る市民たち。

参加

- TTT総会（オンライン）
- World Localization Day（6月21～22日）
  https://worldlocalizationday.org/
- TotnesのHigh Streetにおける抗議活動”Black lives Matter”（6月7日）
- Food in Community（2月1日） https://foodincommunity.org/
- Transition Network主催「Connecting Transitions」（オンライン 3月30日）
  https://transitionnetwork.org/new.../connecting-transitions/
- Earth Talks - The Joy of Six（オンライン）
  第1回「Transformative Resilience in a time of Covid Crisis with Dr Chris Johnstone」（4月29日）
  第2回「After the pandemic: seizing the opportunity」（5月6日）
  第4回「Co creating the emerging future: 7 Skills for taking a lead during and after the Corona Crisis」（5月20日）
- Instagram Liveにて英国現地報告会（5月12日）

トットネスの中心地で行われた ”Black lives Matter” の抗議活動に参加

Food in Communityの様子

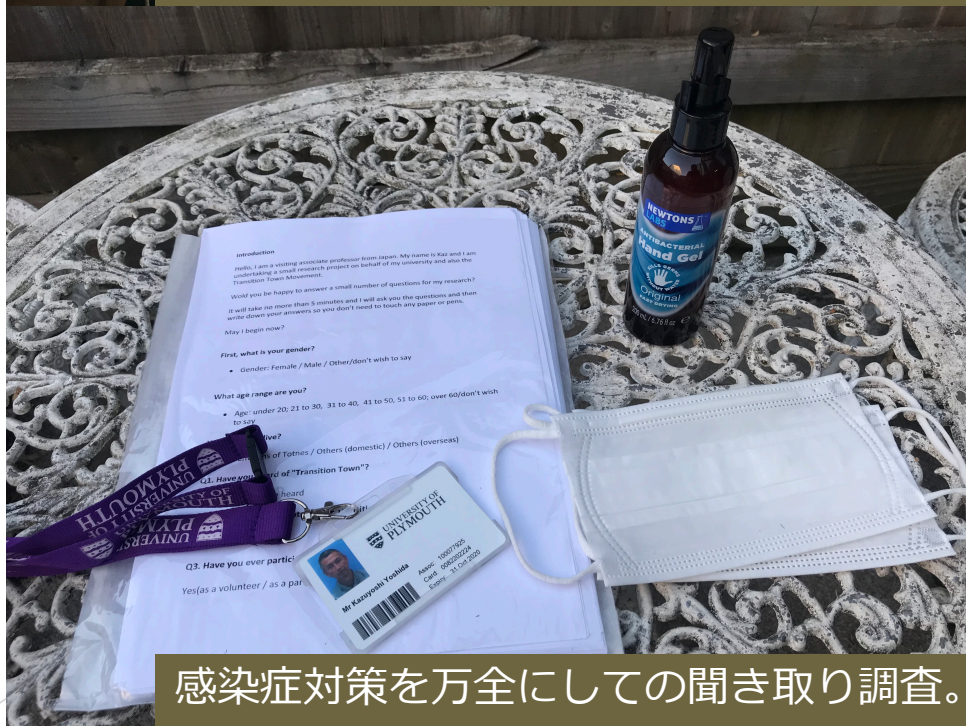
ボランティア活動

- South Devon Steiner SchoolのWork Day(12月5日,3月14日）
- Transition Town Totnes(TTT)の”Incredible Edible”（毎週水曜夕方）

調査

- Transition Town Totnes(TTT)の中心人物（理事、スタッフ、ボランティアリーダー等）へのアンケート調査
- 「トットネス・トランジションタウン意識調査」（街頭でのインタビュー調査：7月17日、7月31日／Facebookを介してのオンライン調査）
- コロナウイルスによる自粛要請中の街中調査（6月27日、7月4日）

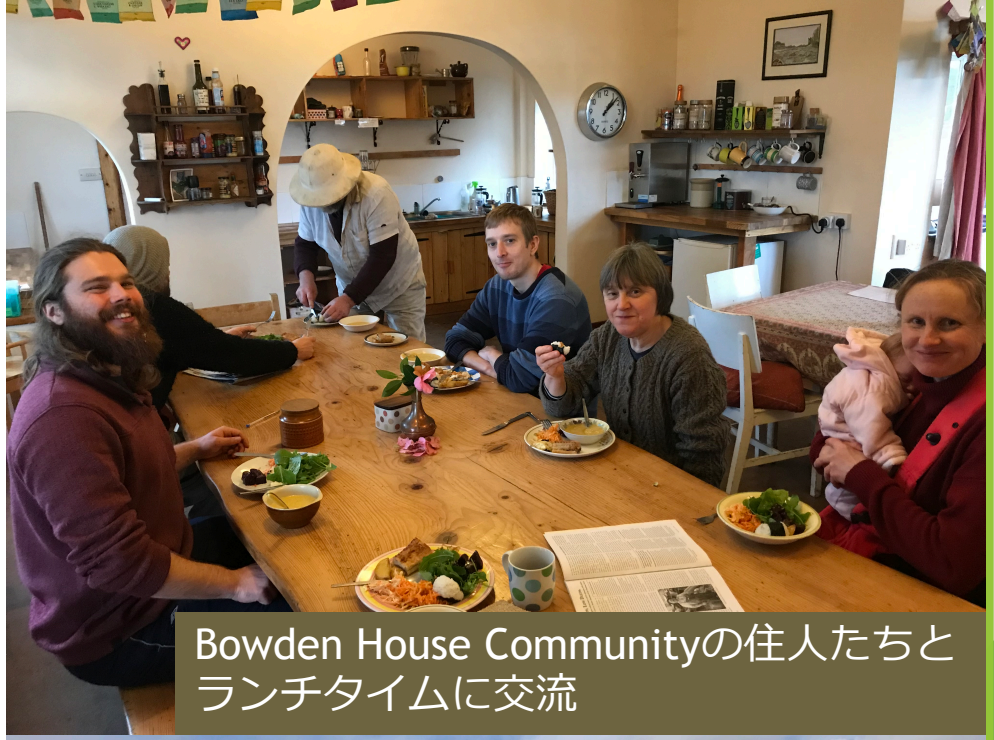
ロックダウンが解除され、やっと活気が戻ってき始めたマーケットで調査実施。



感染症対策を万全にしての聞き取り調査。

見学

- South Devon Steiner SchoolでのUpper School Open Event（12月5日）
- Bowden House Community訪問（12月22日）
- Eden Project訪問（2月20日）
  https://www.edenproject.com/
- プリマス大学講義“English for Academic Purposes”オブザーブ参加（主に経済を専攻する学部2～3年生の留学生対象。SDGsがテーマ・素材）
- エコビレッジ Monkton Wyld Court訪問＆インタビュー（3月5日） https://monktonwyldcourt.co.uk/
- Schumacher College（Ecological Design Thinkingコース）のDartmoor Zoological Parkでのフィールドワークにオブザーバー参加



Bowden House Communityの住人たちとランチタイムに交流

Eden Project全景

勉強会・研究会

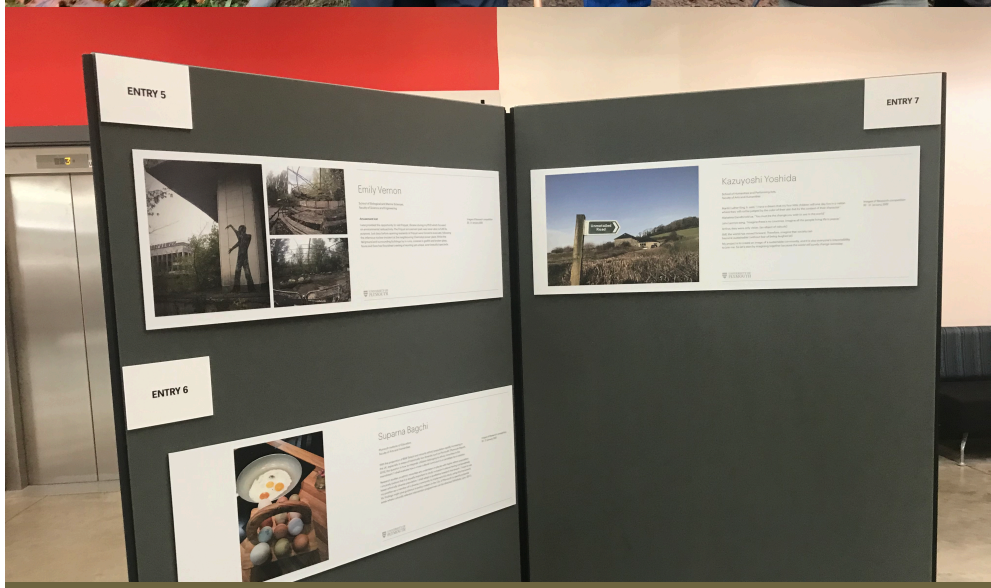
- Schumacher CollegeのShort Course ”Gandhi and Globalisation”（11月18～22日）

  ＊下記2講座も受講申し込み済みだったがロックダウンの関係でキャンセル

  "Creative Facilitation in a Time of Environmental Emergency”

  “Co-creating the Emerging Future 2020: The Schumacher Certificate in Leadership and Facilitation”
- Images of Research competitionへの出展(プリマス大学のResearch Festival 2020)
- シュタイナースクール親の勉強会（1月31日より　毎週金曜日午前、参考文献“How to Know Higher Worlds”）
- Sustainable for Higher Education Conference 2020（5月22日 2020大会テーマ:”The fierce urgency of now: Navigating paradoxes in sustainability education”)
- Research NODE Zoom meeting（オンライン）での発表:”New possibilities and options for higher education in creating a sustainable society”（7月16日）

Short Course ”Gandhi and Globalisation”
地球の歴史46億年を4.6kmに見立て、ウォーキングして体感するワークショップ。



Images of Research competitionへの出展（展示
右：自身の研究イメージをグラフィックに表現）

研究成果（中間報告）

【トランジションタウンに関するTotnes住民の意識調査結果】

- TotnesがTransition Townであることの認知度は約9割にのぼるものの、TTTの活動に全く参加したことがない人は約3分の2(66.4%)で、住民全体がコミットしているわけではない実状が垣間見える。
- TTTのコアメンバーへのアンケート調査においてもその認識はあり、「トランジションタウンの謳う哲学や考え方はトットネスの人々の間に浸透している」との問いに”Agree”とする人は半数を若干上回る程度（56%）だった。
- また、「TTTは創設時に掲げたビジョンや目標を達成した」との問いにも”Agree”とする人は3分の1に留まり、日本で抱かれているイメージとはギャップがあり、課題を抱え、運動の途上にまだまだあるとの印象を受けた。

研究の今後の課題

- トランジションタウン運動にコミットできるのが、ミドルクラス以上（気持ちとお金に余裕がある人たち）であるという現状。トットネスの中でも住民の所得差のギャップがある上、トットネス自体がイギリス国内においても比較的裕福な地域にあたる。

→ 持続可能な開発が、いわゆる「意識高い系」だけの関心事とせず、**いかに社会全体の課題、普遍的な問題としていけるか？**

- 地域におけるTTTの求心力の低下が見られる：立ち上げ・中心的メンバーの世界組織への移行、助成金・補助金の打ち切り（“金の切れ目が縁の切れ目”）、気候変動により問題意識が向く（Extinction Rebellionの勢力増大）

→ NPO/NGOのような組織が抱える問題が英国またはトットネスにおいても日本同様に見られる。そうした **“市民運動の限界”をどう乗り越え、社会のうねりとしていけるか？**

- ただし、それでもやはりトットネスという街の持つ潜在的な力・可能性を存分にも感じたのも事実。明白には見えてこない“非認知的”な力はどこから来るのか、どういう土壌・文化が前提になっているのか？

→ 見えない**非認知的能力の育むプロセスとその評価方法は確立できるのか？**

総括

- 「Greenest Universities in the UK」でトップ10にランキングされるような先進的な大学の事例を現地訪問を踏まえて調査実施する予定でいたが、それを留学期間後半に予定していたため、コロナのパンデミックとロックダウンでまったく実現できなくなってしまった。その前段の文献調査までで頓挫した格好で、正直なところ、現地にいる価値が薄れてしまったのは非常に残念であった。それでも実際に地域に身を置き、コロナ禍において住民がどう対峙していったのかという空気感を感じ取れたのは、貴重な体験であった（故に、持続可能なコミュニティのあり方に関しての調査のみは幾分実施できた）。
- 大きな課題を残すこととはなったが、英国との関係性を保ちつつ、引き続き、研究フィールドとして取り組みなさいという啓示であると前向きに捉え、中長期的な視点で調査を敢行し、大学での取り組みに少しずつ還元していきたいと考えている。

Schumacher College創設者
サティシュ・クマール氏と

University of Plymputhでの指導教授
Dr Satish B Kと